

## ● 事例紹介 ●

## つくばインターンシップ・コンソーシアムの試み

久保田 優

(筑波大学学生部就職課 専門員  
つくばインターンシップ・コンソーシアム代表)

はじめに

## 筑波大学建学の理念

筑波大学は、先端的・独創的な知の創出と個性輝く人材の育成を通じて世界に貢献することを使命とし、①学群においては広い視野、豊かな人間性及び確かな学力を備えた人材の育成、②大学院においては深い専門性に裏付けられた独創性と柔軟性を兼ね備えた研究者及びグローバルな視野と専門的実務能力を併せ持つ高度専門職業人の養成、③筑波研究学園都市の充実した研究環境を活かし、卓越した研究成果と有為な人材を産み出す新たな教育研究拠点の創

出、④学術的・社会的意義のある基礎研究及び応用研究の重点的な推進並びに学術文化の継承発展に資する基礎研究及び展開研究の推進、⑤開かれた大学として、国際社会、地域社会、産業界との連携により、積極的に社会に貢献、⑥常に時代をリードする大胆な大学改革の率先により、我が国の高等教育及び学術研究全体の改革を強力に推進することを、基本的な目標としている。

## つくばインターンシップ・コンソーシアム設立の背景

筑波大学は開学以来、その建学の理念に基づき、国内外に多大な貢献をしてきたが、筑波研究学園都市を擁するつ

くば市への地域活性化や産業発展については、貢献の余地を残している。



また、本学の使命の一つである高度専門職業人の育成のためにも、筑波研究学園都市における立地という好条件を十分に活かしているとは言えない。本学の学生たちは全国各地から入学し、キャンパスで数年を過ごした後、主として東京方面に就職していくことが多く、卒業後のつくば市への定着が少ないことが、卒業生のネットワーク形成が促進されない一因にもなっている。一方、キャリア教育とし

くば市への定着を促進することは重要課題と考えた。そのため、文科系・理科系を問わず意欲のある学生が、つくば市の企業におけるインターンシップを通じてつくば市の現状に触れ、自らの職業観や新しいビジネスへの意欲を養うことができれば有意義であると考え、本学の「社会貢献プロジェクト」として、つくばインターンシップ・コンソーシアム(愛称「TIC」)を設立(平成一八年一月一七日設立)することとしたものである。

## TICのインターンシッププログラム(図1)

これまでのインターンシップは、学生の社会適応力、人間力を養成する手段として取り入れられ、就職活動と切り離して教育の一環として導入されてきた。その内容は、授業の一部とするものやインターンシップを単位化するものなど様々な形態により教育課程の中に取り入れられているものが多く見受けられる。このことでインターンシップのほとんどが無報酬であった。また無報酬であることからインターンシップ期間が短く設定されていることが併せて考えられる。このような状況の一方、短期間のインターンシップに参加することで学生は単位を容易に取得できる授業と

て期待されているインターンシップを経験しようとする筑波大学生は、都内へ通うか宿泊しながらのインターンシップを余儀なくされており、学生には多大な時間と経費の負担となっている。そのような状況の中、平成一七年八月からは「つくばエクспレス」が開通し、つくば市をめぐる環境は大きく変わろうとしている。この変化をつくば市の長期的発展への好機とするためにも、筑波大学出身者のつ

TICは、学生と企業の間において、筑波大学とつくば市及び筑波学院大学（平成一八年度から参画）で構成され、そこに加えて筑波大学の就職支援サークルを中心とした筑波大学学生団体に学生への広報やニーズの調査等を協力してもらっている。筑波大学（就職課）は、TIC活動の企画立案やその実施及び参加企業の開拓など中心的な役割を担っている。つくば市（産業振興課）は、TIC事務局の本拠の提供や参加企業の開拓にも協力いただいている。筑波学院大学にはイベントの実施に協力をお願いしている。また、TICは、前述した四団体に加え、外部支援団体として、茨城県労働政策課、茨城就職支援センター、ジョブカフェいばらき、いばらき工業サロン、つくば市商工会と

TICの構成概念（図2）

響しないよう調整し、作成している。  
有償とする上で重要なことは、例えば、時給八〇〇円で単純労務を行うアルバイトと区別するため、企業の組織、生産ライン、営業、販売等を学修するとともに、実際に部署業務に携わることがもとより、提案や新たな発想等を提供できるプログラムを企業と相談しながら作成することである。

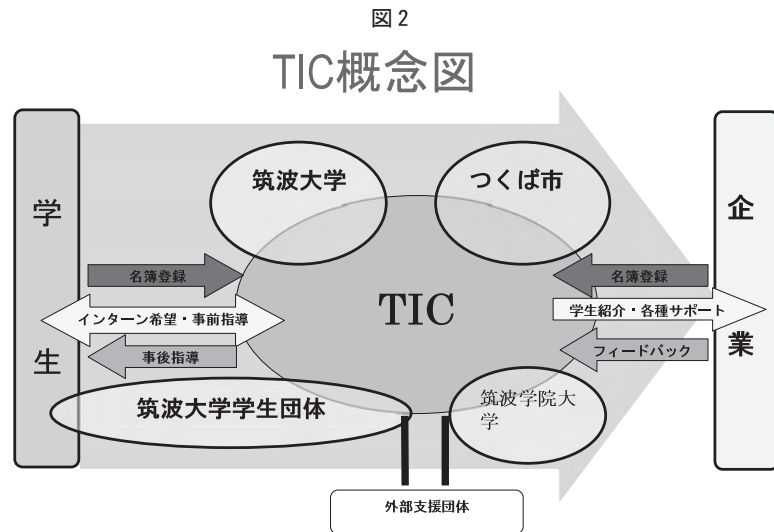
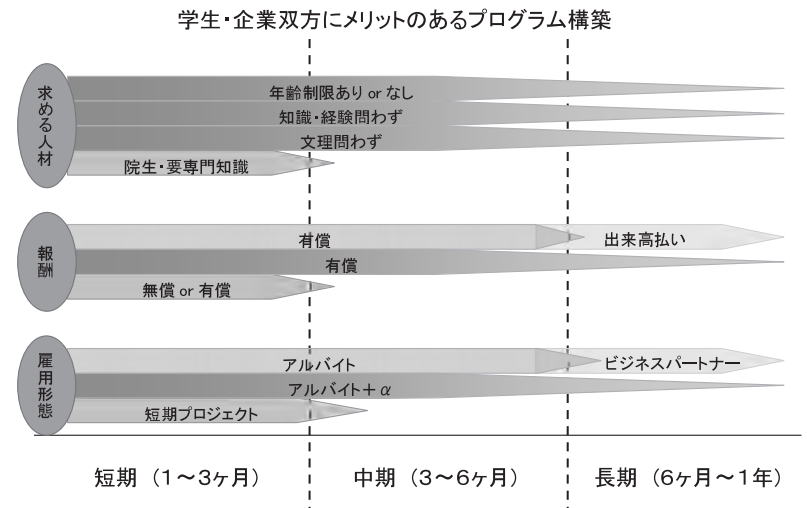


図1



捉える向きもある。そこで、TICは、筑波大学の位置するつくば市内でインターンシップを経験できることから学生・企業双方にメリットのあるプログラムを提供したいと考え、プログラムを工夫することにより、中・長期のインターンシップを取り入れることとした。  
TICの設立にあたり、数社の社長との意見交換やインターンシップ参加企業開拓のための企業訪問を行ったが、そこで分かった企業が求めるインターンシップとしての受入れ学生像は、「年齢制限有り又はなし」、「知識・経験は問わない」、「文系、理系を問わない」などのほか、比較的短期で行うプロジェクト要員として、「高度な専門意識を持つ大学院生」であった。  
従来のインターンシップは、教育の一環と考えることから無報酬とすることが多いが、学生の能力や技術力を企業に提供する場合もあると考えられることから、企業に対する貢献度により有償もあり得るとの考え方にたつた。例えば、製品開発等の提案が受け入れられた場合とか、長期にわたるインターンシップでは、学生の労務負担の大きさに加え企業へ与える影響が大きいと判断された場合である。プログラムの作成にあたっては、企業の事情や学生のニーズを踏まえ、私と企業の話し合いの上で、学生の授業に影響

も連携し協力をいただいている。特にいばらき工業サロンではその登録企業約四〇〇社への連絡に重要な協力と支援をいただいている。

**TIC本拠地**

TIC事務局は、筑波大学キャリア支援室に設置したが、つくば市およびつくば市商工会の協力を得て、平成一九年度から左記に事務局を移転した。  
現住所・〒三〇五-〇〇二七 つくば市東岡四四一-一  
つくば市商工会校支所一F

**事業内容**

主として次に示す事業を実施している。

① **インターンシップに関するポータルサイトの運営**(図3、4)  
情報取得に有効なインターネットを活用することで、少ない人的素材で有効かつ合理的な支援方法を模索している。TICへの参加登録等は、専用ホームページで行い、またインターンシップ企業プログラムも公開することで、学生がプログラム内容に自由に目を通して参加できるように心がけている。

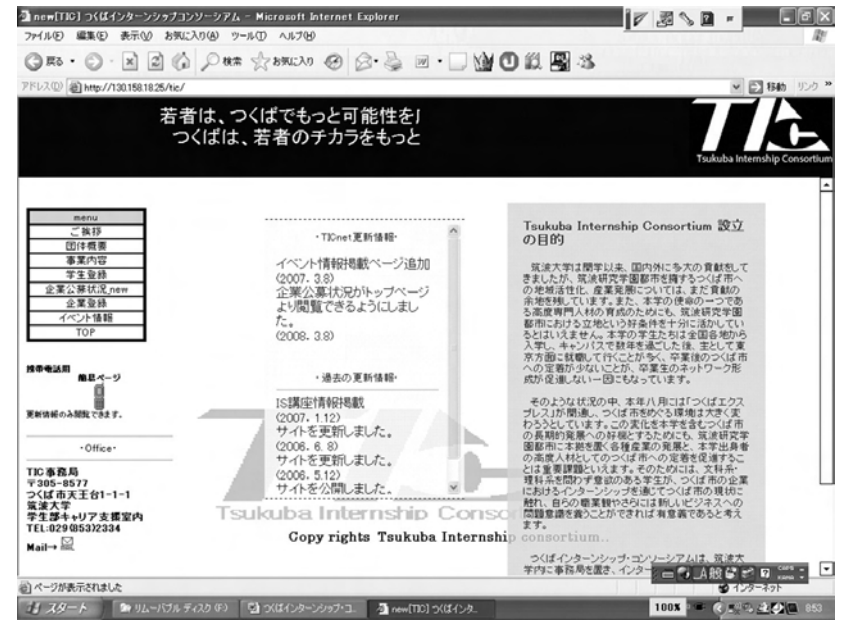
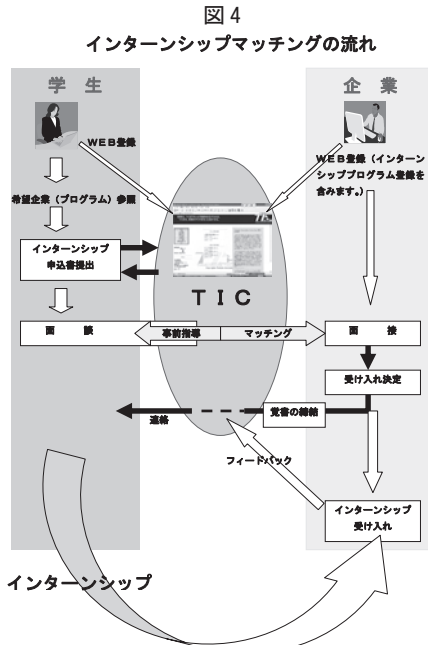


図3



② **学生に対するインターンシップ参加活動のサポート**  
インターンシップは、近年多くの企業が取り入れており、つくば市内においても、人材育成の意識が高い経営者は多く、いくつかの企業ではインターンシップの機会を提供している。しかし、企業と学生との接点は限られているため、学生には十分な情報はなく、結果としてインターンシップを希望する学生の多くは、多大な時間的・金銭的負担を強いられるが、東京へ通っている現状がある。学生がつくば市内でインターンシップに参加することは、大幅な負担

**事前・事後指導の重要性**

の軽減につながり、また就業経験を積むことで、主体的に働く意義を見出す機会となるとともに、将来つくば市で働くという選択肢の提供に寄与できる。  
具体的な事業内容は、①つくば市内のより多くの学生に、高度な就業体験を得られるよう支援し、市内でのインターンシップに参加できる機会を提供すること。②インターンシップに参加するための事前・事後指導\*を行うこと。③インターンシップ中の各種サポート(相談)を行うこと。④登録企業情報の提供を行うこと。⑤長期的かつ実践的なインターンシッププログラムを構築、提供することなどである。

**事前・事後指導の重要性**

インターンシップへの参加は、様々な「気づき」が得られ、自身の社会経験、人間形成に有効な手段であることはこれまでも認められてきているところであるが、学生がよりインターンシップ経験を充実したものにするためには、学生が自己理解した上で、インターンシップの目的や態度、意思といった内面の気構えがなければ有効性が損なわれる。そのため、TICのインターンシップサポートにおいては、この「事前・事後指導」(面談)は欠かせないTIC事業の

**平成一八年度実施事業**  
 これまでTICは、筑波大学内に事務局を置き（平成一九年度から外部に移設）、インターンシップにかかる企業・学生双方の窓口を一本化し、つくば市の産業発展に向けて新たな可能性をもたらすことを目指してきた。

核と位置づけられている。実際には申込書に目的、自己PRを記入させそれに基づいた事前面談を、事後では、報告書や口頭報告を義務づけ、経験から得た「気づき」を再確認するための面談を一時間から二時間行うこととしている。

③長期的かつ実践的なインターンシッププログラムの構築、提供（図5）  
 TICで作成するプログラムの基本理念は、「学生、企業の相互にメリットのあるインターンシッププログラム」であること。これは企業の日常業務の一助となるプログラムであって、学生の職業観や就業意欲の高揚を図り、かつ、働くことから得られる「気づき」のあることを目指すものである。そこでTICは、受入れ企業と相談しながら、教育的な観点にも配慮したプログラムとなるよう努めている。

**登録企業の情報の広報活動**  
 つくば市内の企業の一層の発展は、優秀な学生の採用により実現されると考えられるが、本学の学生の就職地域は、東京都が圧倒的に多く地元定着はほとんどないのが現状である。そこで、このインターンシップを活用することで、学生はつくば市の企業を知ることができ、それが就職に結びつくことが考えられる。より多くの学生がつくば市に定着することで、つくば市産業界の活性化と一層の発展が期待される。

具体的な情報の発信や広報活動は、①インターンシップマッチングフェアの開催により、参加企業が学生に自社についてアピールする機会を提供する。②学生の事前指導、事後指導により、学生と企業のスムーズなマッチングのサポートを行い、企業における有効性の充実を図る。③相互協力した受入れ企業のインターンシッププログラム構築のサポートを行う。

これまで十数社に対し、三〇名のインターンシップ生をマッチングした。また、学生のインターンシップへの普及と育成を目的とした全六回のインターンシップ講座を平成一九年一月から二月に実施した。マッチングでは、従来の学生各個人の申込み型ではなく、より実践的に企業経験を積めるよう、マッチング前の個人指導に重点を置いた。個人指導では、インターンシップ申込書（記載の自己PRは八〇〇字以上）に基づく面接、指導、自己理解の醸成支援等を行い、インターンシップへ主体的に取り組む姿勢の育成を実施し、また、終了後においても報告書の提出や、事後指

マッチングフェア風景



平成一八年度においては、三月・インターンシップマッチングフェアを企画（学内）、四月・筑波学院大学加入、四月～五月・筑波大学、筑波学院大学内で七回の説明会開催、六月一四日・インターンシップマッチングフェア開催を経て、現在まで十数社に対し、三〇名のインターンシップ生をマッチングした。また、学生のインターンシップへの普及と育成を目的とした全六回のインターンシップ講座を平成一九年一月から二月に実施した。マッチングでは、従来の学生各個人の申込み型ではなく、より実践的に企業経験を積めるよう、マッチング前の個人指導に重点を置いた。個人指導では、インターンシップ申込書（記載の自己PRは八〇〇字以上）に基づく面接、指導、自己理解の醸成支援等を行い、インターンシップへ主体的に取り組む姿勢の育成を実施し、また、終了後においても報告書の提出や、事後指

**つくばインターンシップ・コンソーシアムプログラムシート**

(企業用)

企業名: ○株式会社 住所・連絡先: つくば市天王台1-1-1 TEL 853-1234 担当: 筑波太郎  
 このプログラムは、筑波大学が企画する「つくばインターンシップ・コンソーシアム」に対応して、上記企業が計画するインターンシッププログラムです。

Plan	A	B	C	D	E	F
名称	〇〇業務の流れ研修	〇〇試験装置の開発	〇〇機〇〇部品の研究	〇〇の設計と製作	イベント企画・運営	総務・経理に関する業務
職種	事務及び技術	技術（機械、情報）	技術（機械）	技術（〇〇工学）	一般	事務（経営）
対象	学部3年生以上 会社業務の流れを勉強したい人	学部3年生以上 自分で製品を開発してみたい人	学部3年生以上 企業での実用化研究に携わってみたい人	指定無し 技術的なアルバイトをしてみたい人	指定無し 企画・運営に興味があり「7M」の仕事してみたい人	学部・文理不問 将来、会社を起すか勉強をしたい人
内容	弊社の〇〇業務に対し客先の話が起きてから、提案書の作成、見積提出、受注、設計、製作、調整、検査、納品までを弊社技術担当者がどのように業務を進めていくのか、実際に現場を見てもらう。	〇〇試験装置（機型有り）の開発の補助。また、装置の設計、製作、調整、検査、納品までを弊社技術担当者がどのように業務を進めていくのか、実際に現場を見てもらう。	弊社の〇〇機〇〇部品の開発試験を行う。〇〇機〇〇部品の開発試験を行う。研究テーマを明確にし成果目標をきめたい。〇〇機〇〇部品の開発試験を行う。実習、40日程度必要と予想している。	弊社が開発しようとする〇〇の設計と製作を行う。〇〇の手作りをする。設計、材料手配、工作、組立、性能試験の一部又は全部の補助を作業とします。この〇〇を使用し次年度は、次段階の計測システムの開発を行います。	弊社が開発・運営しようとするイベントを行うためのコーディネートを行う。企画プロジェクトに参加し、一部又は全部の補助を作業とします。	中小企業における総務・経理に関する業務の経験が求められる。ベンチャー企業を立ち上げたい人、会社での仕組みを知りたい人向けの内容を相談して決めます。
期間	案件によるため、未定。およそ、3ヶ月程度と想定。週1～2日程度	4月～5月で設計 6月～7月で製作 8月～9月でソフト調整	〇〇計測技術取得 10日 研究テーマの設定 5日 試験治具の製作 5日 試験研究 10日 レポート作成 10日 全体で半年程度	仕様検討 5日 設計 10日 材料手配工場管理 5日 組立性能試験 5日 全体で3ヶ月程度	企画会議 5日 現状調査 10日 企画開発 5日 企画実施 5日 全体で3ヶ月程度	面談、内容打合せ2回 実務補助 2日 社内業務の勉強 5日 財務計画書作成補助 5日 日程は、連続ではなく8～9月に渡る予定。
場所	本社、弊社客先、弊社協力工場	本社及び〇〇工場	本社	本社及び〇〇工場	本社及び〇〇工場	本社
交通費	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。	本社までの交通費は自己負担。その他に生じる場合の費用は、弊社負担。
費用	無し（ノートパソコン持参）	無し（弊社で用意）	無し（弊社で用意）	無し（弊社で用意）	無し（弊社で用意）	無し（弊社で用意）
報酬	報酬無し	報酬有（金額は相談）	試験治具の製作以降に発生した金額は相談	金額は相談	金額は相談	報酬無し
成果	実習報告書を出す。弊社に帰属する。	弊社に帰属する。	レポート作成、成果は弊社に帰属する。	弊社に帰属する。	弊社に帰属する。	実習報告書を出す。1名
募集人数	若干名	若干名	若干名	2名	2名	1名
担当	受入花子	受入太郎	受入太郎	受入太郎	受入花子	受入花子



導においてインターンシップで得られた経験や成果の確認を行い、自ら学ぶ態度や自らが問題を発見し、解決に取り組むという主体的な姿勢の再確認を行った。

＊インターンシップの事例

●受入れ企業…朝日新聞茨城支局

参加学生数…三名

期 間…当初半年であったが、後に一年間へ延長  
(現在は二年目に入っている。)

内 容…朝日新聞地方紙面への記事掲載のための記者活動

単位認定…無

●受入れ企業…ナカヤマリカセイキ株式会社

参加学生数…四名

期 間…二週間(一般事務経験学生は、その後アルバイトとして継続)

内 容…三名は製作プロジェクト補助、一名は一般事務全般

単位認定…無

●受入れ企業…アルソア化粧品つくばショールーム

参加学生数…一名

期 間…一ヶ月のうち任意の一〇日間  
内 容…ショールーム業務全般  
単位認定…無

平成一九年度実施予定事業

設立後三年目(実質二年目)を迎える平成一九年度は、事務所をこれまでの筑波大学キャリア支援室内からつくば市の支援を受け外部に移転し、非常勤職員一名の配置を行った。これによりこれまで筑波大学就職課において行ってきた業務に関して、一般事務の処理体制が充実し、これまで以上に個人指導(インターンシップ事前、事後指導、各種相談)体制の充実が整備された。また、本年度は、茨城県との連携により茨城就職支援センターからカウンセラー派遣の協力が得られる予定である。加えてインターンシップ受入れ企業の開拓において、ボランティアコーディネーターの協力が得られることから、企業ニーズにあったインターンシッププログラム構築をより支援できることとなり、登録企業数の増大が期待される。

具体的な事業は、昨年に引き続き、①TICインターンシップ説明会(平成一九年四月～五月全八回)、②インターンシップ講座(五月～九月全六回)、その間学生は七、八月

にインターンシップを経験する。)③インターンシッププログラムフェア(平成一九年六月)を行い、本年度は新規に④茨城県内企業就職面接会(平成一九年一月を予定)を行うこととした。この茨城県内企業就職面接会は、昨年までつくば市ジョブセンター(平成一六年度厚生労働省補助金により設置、平成一八年度閉所)の実施事業であったが、TICが事務所を開設したことに伴い、昨年同様につくば市に替わり継続して実施するものである。

今後の課題と計画

つくばインターンシップ・コンソーシアムは、設立三年目を迎え、本学をはじめ、近隣の大学、つくば市及び茨城県の期待は大きい。今後の進展を考えればTICの自立的な活動が求められる。このためには人と予算が必要となるが、現在は限られた予算の範囲内での活動を余儀なくされている。これを打開するためには、参加大学の拡大やその参加大学からの人的或いは予算的な支援についての規定化が必要になるであろう。更には、参加企業の有料化や支援団体からの支援金の拡大についても検討していくことも必要であろう。この上で、より実践的な(製品開発、研究レ

ポートの作成、新製品の提案等)インターンシッププログラムを作成するとともに、つくば市近郊の大学に通う学生にこのインターンシッププログラムを体験してもらいたい。これにより、つくば市の企業が地元大学生の採用の機会を増やし、地域の大学と企業が長期的なパートナーシップを築けることへ寄与していきたいと考えている。